

フリーダイヤル、  
オンラインチャット&つぶやく 実績

## ●フリーダイヤル

2022年8月~12月	当期	前年同期比
発信数	170,148件	-25,464件
着信数	78,955件	+11,786件
着信率	46.4%	+11.5ポイント
平均通話時間	4分37秒	-69秒
総通話時間	6,078.6時間	-372.6時間

## ●オンラインチャット

2022年8月~12月	当期	前年同期比
訪問人数	60,712件	+2,658件
書込件数	15,215件	+2,522件
対応件数	5,254件	+1,443件
対応率	34.7%	4.7ポイント
平均対応時間	42分33秒	+135秒
対応時間	3,735.6時間	+1,237.1時間

※フリーダイヤル=NTTコミュニケーションズトラフィック調査ツールより  
オンラインチャット=チャットシステムAI.BISのレポート解析結果  
およびチャイルドラインデータベースより

## ●つぶやく

2022年 8月	9月	10月	11月	12月
2,004件	2,073件	2,216件	2,256件	2,211件

thank  
youご支援・ご協力  
ありがとうございます

子どもたちの生きやすい社会を目指し活動する  
チャイルドラインへのご支援をこれからもよろしく  
お願いいたします。

## ●2022年8月~12月のご寄付総額

5,563,467円

ゆうちょ  
銀行

振替口座 00120-5-425245  
(019支店 当座0425245)  
口座名 NPO法人チャイルドライン支援センター

※当団体は東京都の認定を受けています。ご寄付いただくと所得税  
や法人税の控除を受けることができます。  
(内閣府HP <https://www.npo-homepage.go.jp>)

Yahoo!  
ネット  
募金

募金サイト  
[https://donation.yahoo.co.jp/  
detail/5452001](https://donation.yahoo.co.jp/detail/5452001)



※Yahoo!ネット募金とは、さまざまな社会課題の  
解決を目的にヤフー株式会社が運営する寄付の  
ポータルサイトです。クレジットカードやTポイントによる寄付  
に対応しています。

こどもまんなか  
の支援を考える

今春から「こども家庭庁」が始動します。「こどもまんなか」をコンセプトに、虐待や子どもの貧困などの課題に対する政策の一元化を目指すということです。また、政府は「こども予算倍増」に強い意欲を表しています。背景には少子化問題があり、子育て・若者世代への支援を拡充させ、子どもを産み育てることを支援するという視点が欠如しているように思います。

文科省の発表では、いじめ認知件数は2019年に最高となり、コロナ禍で休校や分散登校が実施された2020年に減少したものの、2021年には前年比1.4倍増で過去2番目に多い件数となっています。また2021年の不登校数は前年比25%増で過去最高を大幅に更新しており、文科省は増加要因を「コロナ禍の行動制限で人間関係や生活環境が変化したことが影響した」と発表しています。確かにコロナ禍の影響もありますが、要因はそれだけでしょうか。そもそも子どもたちの心はいつ破れてもおかしくないくらいに「パンパン」になっているのではないかと思います。もっと子どもの気持ちに寄り添った考察が必要です。

警察庁が発表した児童虐待通告件数も過去最多を更新し続けています。チャイルドラインに届く子どもの声の中には「家にも学校にも居場所がない」というものが少なくありません。「居場所がない」と感じて育った子どもたちが「将来家庭を持ちたい、子どもがほしい」と思えるのでしょうか？

「こども家庭庁」創設に伴い「子どもの権利条約」の理念が組み込まれた「こども基本法」が成立しました。今の子どもが幸せを感じ成長できる社会づくりには、子どもの意見を聴き、共に作るという「子ども視点」と「子どもの参画」が欠かせません。「こどもまんなか」の子ども支援がなされることを大いに期待し、その一翼を担っていきたいと思います。

編集担当 高橋・後藤・中村

特定非営利活動法人(認定NPO)

チャイルドライン  
支援センター

ニュースレター

News Letter

vol.  
146

チャイルドライン

## 巻頭言

2022年6月、子ども政策の司令塔となる「こども家庭庁」の設置関連法案が成立し、子どもの権利を守るための基本理念を定めた「こども基本法」も同時に成立しました。すべての子どもの権利が守られ、幸せに成長できる社会にする大きな一歩になる法律です。

そうした社会の動きの中、12月5日にチャイルドライン支援議員連盟総会・勉強会を開催できたことはとても意義がありました。総会では会長として野田聖子衆議院議員が就任し、新体制が承認されました。総会後の勉強会では、超党派の議員のみなさんから、チャイルドラインに届く子どもの声の社会発信、各省庁への要望などについて、活発な質問や意見をいただき、チャイルドラインの存在意義の確認と今後の活動への後押しになりました。

野田聖子会長は、こども家庭庁創設に大きく関わられ、当時国務大臣として「こどもまんなか社会」について、「常に子どもの最善の利益を第一に考えて、子どもに関する取組、政策が我が国社会の真ん中に据えられる社会」と位置付け、子どもが権利の主体であることを社会全体で認識し、子どもを誰一人取り残さず、健やかな成長を後押しする社会を目指す」と答弁されたことがとても印象に残っています。

チャイルドラインは子どもの権利条約の理念のもと、「子どもはおとなと対等な存在であり、社会をつくっていくパートナー」という子ども観で活動を続けています。今まさに行政と「こどもまんなか社会」の実現に向けて連携していく時を迎えています。

子どもを誰ひとり  
取り残さない  
社会の実現に向けて

子どもの声を電話で聴くことからスタートしたチャイルドラインですが、子どもを取り巻く環境の変化や子どものニーズから2016年よりオンラインチャットを導入しました。また、コロナ禍で活動を縮小せざるを得ない中、何とか子どもが気持ちを吐き出せる場を確保したいという思いで「つぶやく」をホームページに設置しました。今ではひと月2,000件もの声が届いています。さらに格安スマホなどの普及でフリーダイヤルにつながらない子どもの声も聴けるようにと、インターネット回線を利用してつながる「ネットでんわ」の試行を始めています。

今後は、チャイルドラインの活動にも積極的に子どもが参加できる仕組み作りや、関わるおとなの意識のアップデート、また、各地域に「子どもは社会をつくっていくパートナー」という意識を持てるおとなを増やしていく役割にも、より一層力を入れていかなくてはならないと考えています。

子どもを誰一人取り残さず、豊かで幸せに生きることのできる社会をつくるために、子どもの現状を伝え、子どもを取り巻く環境の何が問題なのか、社会をどのように変えていく必要があるのか、チャイルドラインはこれからも問題提起していきます。

そして、子どもから信頼される団体として存在し続けられるよう、活動への努力を惜しまずに行いたいと思っています。

チャイルドライン支援センター  
専務理事

平井 貴美子



発行日 : 2023年2月15日

発行 : 特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター(認定NPO)

〒162-0808東京都新宿区天神町14神楽坂藤井ビル5階 TEL: 03-5946-8500 FAX: 03-5946-8501

URL: <https://www.childline.or.jp/>E-mail: [info@childline.or.jp](mailto:info@childline.or.jp)



# こども支援の輪

現在、世界150の国や地域でチャイルドライン活動がされており、日本においては、特定非営利活動法人 チャイルドライン支援センターにより、38都道府県68箇所の市民団体・約1,750人のボランティアの皆様が、こどもの悩みや相談の声に耳を傾け、年間17万件の電話やオンラインチャットを受けておられます事に心より感謝申し上げます。

私は昨年（令和4年）8月まで内閣府特命担当大臣として、こども政策、少子化及び男女共同参画、地方創生、孤独・孤立などを所掌し、こども政策として国・社会の真ん中にこどもを据えた「こどもまんなか社会」を推進して参りました。そして今年（令和5年）4月に「こども家庭庁」が創設されることとなりました。「こども家庭庁」は総理大臣直属の機関で、担当大臣や他省庁に対して勧告権を持ち、こどもの意見の反映、就学前のこどもの育ちの保障、こどもの居場所づくりなど、こどもの意見を聞きながら政策を決定していく新たな推進体制として設置されます。

また、私が大臣時代に何よりも力を入れてきた事は「当事者であるこども・若者の声を聞くこと」でした。新型コロナウイルス感染症による休校で生じた友人との距離感や孤独感、親の収入減からなる貧困、いじめや虐待など、こどもの生きにくい環境が整備されず若年層の自殺は増え続けており、こどもをめぐる課題は依然山積しています。

さらに、官・民・NPO等の連携強化が必要との認識の下、「孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」の設立の他、グローバルな視点から孤独・孤立に関する駐日大使会合の開催や、ひとりじゃないカフェを開催し情報発信をするなどプッシュ型の取り組みを進めて参りました。望まない孤独や孤立、貧困やいじめ問題は社会全体で取り組むべき課題であり、官民一体となってさらに前に進めていきたいと願っております。

このように顕在化・深刻化した問題に対応するため、内閣府では、孤独・孤立に悩む方がいつでも相談できるよう覚えやすいダイヤルの試行を行い「孤独・孤立相談ダイヤル」も設置致しましたが、これらをしっかりと機能させ悩みを抱えるこどもの救済に繋げるためには、ボランティアの皆様に頼るだけではなく、こどもを守ることに国がしっかりと覚悟を持って取り組んでいく必要があります。

私は昨年（令和4年）12月に、超党派の国会議員で構成されている「チャイルドライン支援議員連盟」の会長に就任致しました。チャイルドライン支援議員連盟ではチャイルドラインをはじめ、こどもをとりまく問題に超党派の国会議員で取り組み、2000年の児童虐待防止法制定、2003年、2007年における改正にも大きな役割を果たして参りました。こどもが抱える悩みや問題を理解し適切な整備や対応をすること、また未来を担うこどもたちのサポーターとしてできることを、チャイルドライン支援議員連盟のメンバーと共にしっかりと取り組んで参りたいと思います。

## 「こどもまんなか社会」の実現に向けて



チャイルドライン支援議員連盟会長  
衆議院議員

野田 聖子

18歳までの子どもがつながる  
チャイルドライン。

2022年12月5日  
衆議院議員会館

チャイルドライン  
支援議員連盟  
総会・勉強会  
を開催しました

報告  
report

2022年は「こども基本法」が成立した年であり、チャイルドライン支援議員連盟総会および勉強会が2年ぶりに開催できたことは大きな意味があったと思います。

総会で議連会長に就任された野田聖子衆議院議員は、子ども政策に通じた政治家であり、「子どもの最善の利益を第一に考え自ら汗をかいていきたい」との就任のあいさつに励まされる思いがしました。また、いじめ防止対策推進法の制定に深くかかわるなど「共に生きる社会」実現をめざす小西洋之参議院議員が事務局長に就任されました。総会後の勉強会では、チャイルドライン支援センターより活動報告、子どもの現状、これから果たしていきたい役割についてプレゼンを行い、国に求めたい子ども支援も提示。これを受けて議員から活発に質問や意見が出され、小西事務局長からの「各省庁には具体的なお願いをしたので、これからきちんと詰めていきましょう」との締めくくりの言葉も心強いものでした。

### 【役員】

会長 野田聖子（自民）  
副会長 泉健太（立憲）  
幹事長 浮島智子（公明）  
幹事 後藤田正純（自民）  
長島昭久（自民）  
田嶋要（立憲）  
高橋千鶴子（共産）  
事務局長 小西洋之（立憲）  
事務局次長 鈴木庸介（立憲）

### 【陪席】

内閣官房 子ども家庭庁設立準備室参事官  
孤独・孤立対策担当参事官  
内閣府 政策統括官（政策調整担当）付調査官（青少年企画・支援）  
厚生労働省 子ども家庭局家庭福祉課虐待防止対策推進室室長  
母子保健課母子保健指導専門官  
大臣官房参事官（自殺対策担当）  
文部科学省 初等中等教育局児童生徒課長補佐  
総合教育政策局地域学習推進課家庭教育支援室室長補佐  
法務省 人権擁護局調査救済課補佐官  
警察庁 生活安全局人身安全・少年課課長補佐

（すべて敬称略）

